

愛媛県知事 加戸守行殿

伊方原発で使用されている弁の検査記録がねつ造されていた問題に
についての申し入れ書

2010年10月13日

愛媛県議会日本共産党議員団 佐々木泉

日頃から伊方原発の安全管理に尽力されていることに敬意を表します。

さて10月12日付で四国電力から愛媛県に対して「伊方発電所において使用されている株式会社首藤バルブ製作所にて製造された弁に関する国への報告について」が公表されました。

この報告書によれば、首藤バルブが検査会社B社作成のものとして提示していた外注検査記録がB社製のものではなかったことや、2009年12月以前に製造した弁についてはテストピースも作成されず検査も実施されていなかったことなどが明らかにされています。

原子力発電所は苛酷事故や巨大地震による重大な被害が常に懸念されており、こうした重要設備については徹底的な安全管理が求められています。設備で使用される部品についても材料試験から機能試験にいたるまで厳しい調達管理が求められるのは当然です。

さらにこうした不正の発覚が内部告発に待たなければならなかったのも大きな問題です。

再発防止のための徹底的な原因究明と対策を求めて以下の通り申し入れます。

記

- 1 長期間にわたって検査記録のねつ造が行われていたのになぜ発見できなかったのか明らかにされたい。県はこのねつ造の事実をいつの時点で把握していたのか。
- 2 バルブだけでなく他の調達部品についてもデータねつ造の事実がないか徹底的な調査をし、県民の納得のゆく再発防止対策を四国電力に求めること。

以上